

平成30年度 府民意見交換会in南丹 西脇知事と行き活きトーク

日時：平成30年10月7日（日）13:30～15:00

場所：ギャラリーかめおか 響ホール

○司会 それでは、「平成30年度府民意見交換会in南丹 西脇知事と行き活きトーク」を始めさせていただきます。

京都府では、現在、南丹地域振興計画を含む新しい総合計画の策定を進めています。この計画は、京都府の将来像を府民の皆様とともに描いていこうとするものです。

本日も、そうした趣旨で開催をしておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

改めまして、本日の司会を務めさせていただきます、京都府南丹広域振興局企画振興室の河合と申します。よろしく願いいたします。

まず初めに、京都府知事西脇隆俊より御挨拶を申し上げます。

○西脇知事 皆さん、こんにちは。御紹介頂きました京都府知事の西脇でございます。今日は府民意見交換会、総合計画の策定に向けて意見交換会に御参加いただきまして、誠にありがとうございます。いつも言うんですけど、この横断幕の似顔絵、私に似ていますかね？「行き活きトーク」も併せて行っておりますが、今回は、南丹の地域振興計画を含めた総合計画の見直しに向けた意見交換会ということで、よろしく願いしたいと思います。

まず、冒頭、災害について申し上げますと、今回の3連休については、台風は何とか北の方に行ったわけでございますが、今年は、大阪北部の地震をはじめ、7月豪雨、そして台風12号と20号、21号、それから24号ということで、災害が続きました。特に7月豪雨では、亀岡でも畑野で一人の方が亡くなりました。衷心よりお悔やみを申し上げたいと思いますし、被災された方々には、お見舞いを申し上げたいと思います。

今、府のほうでは、6月補正予算で106億円、それから9月補正で58億円の予算を議会で組んで頂きました。復旧、復興で、なるべく早く日常の生活を取り戻したいという風に思っておりますが、皆様には、道路の通行、利用を含めて非常に御迷惑をおかけしました。一日も早く、復興に向けて努力をしたいというふうに思っております。

私は、選挙のときに「安心、いきいき、京都力」という3つのキーワードで公約を発表いたしました。現在、それを実現させるべく、総合計画の見直しをしております。来年の秋にはそれを仕上げたいと思っております。

京都だけじゃなく日本を取り巻く状況を見ますと、我々は、少子高齢化、特に少子化の

ために、初めての人口減少社会を迎えるわけで、恐らく、私どもも含めて、どんなことになるのかというのはなかなか分からない。ただ、今までやっていたことが通用しないということはよく分かっております。あと、2025年問題と言われている、団塊の世代の方が全て後期高齢者になるという、今まで経験したことがない高齢化社会がやってきます。それから自然災害。学者的には、本当に地球温暖化の影響かどうかわからないというんですが、これほど毎年、同じ地域で何回も災害が起こるのはどういうことなのか、いろいろな課題があるわけでございます。

一方で、文化庁の京都への全面的移転が決定しており、京都の強みを生かせるような時期でもあります。これは京都丹波地域でも、京都縦貫自動車道の全線開通とか、京都丹波高原国定公園の指定、それからこの亀岡ではスタジアムも建設中です。

そのように、にぎわいとか交流のインフラは整いつつありますので、それを生かして、この京都丹波地域をどういうふうに振興していくのかということについて、幅広く御意見を賜りたいと思います。10年後、20年後にどういう地域の姿になっていくのか、どうすべきかということについて、パネリストの方や今日、お越し頂いた方に御意見を賜りたいということで開催させて頂きました。どうか幅広く、忌憚のない御意見を賜ればと思っております。本日はどうもありがとうございます。

○司会 ありがとうございます。なお、本日御多忙の中、地域の市長、町長様にも会場にお越し頂いておりますので、御紹介させていただきます。

石野茂 亀岡市副市長です。

○石野茂 よろしくお祈いします。

○司会 西村良平南丹市長です。

○西村良平 皆様、御苦労さまです。

○司会 太田昇京丹波町長です。

○太田昇 御苦労さまです。

○司会 また、本日は、京都府議会からも会場にお越し頂いておりますので、御紹介させていただきます。向日市選出の磯野勝議員です。

○磯野勝 よろしくお祈いします。

○司会 本日のコーディネーターは、京都丹波ビジョン懇話会の委員で、前亀岡市文化資料館館長の黒川孝宏様をお願いしております。

それでは、これからの進行は、黒川様にお願いしたいと思いますので、どうぞよろしく
お願いいたします。

○黒川孝宏 本日、進行役を務めさせていただきます、黒川でございます。どうぞよろしくお願
いいたします。早速、進行をさせていただきます。

さて今日は、先ほど冒頭に知事の御挨拶にございましたとおり、南丹地域振興計画を含
む、京都府の新しい総合計画の検討を行うに当たり、皆様に御意見を頂く。特に、京都丹
波ブランドということで、観光や食をはじめとする地域の魅力発信ということをテーマに、
今日は5人、御登壇頂いております。

南丹エリアでは森の京都、山城ではお茶の京都、丹後では海の京都。それぞれ京都府内
を特徴的に位置付けており、こちらの地域では「森」というのがキーワードとなっております。
今日、御登壇頂いております皆様を、私の方から順次紹介をさせていただきます、その後、
自己紹介を兼ねて、御自身の活動とか、そういったところを述べて頂くという予定になっ
ております。

まず最初に、J R西日本ホテルズ総料理長の佐藤伸二さんです。

続きまして、京都学園大学バイオ環境学部准教授の篠田吉史さんです。

続きまして、京・来て観て丹波の会会長の長野豊さんです。

続きまして、絵本のお店「絵本ちゃん」代表の谷文絵さんです。

そして最後、京都・丹波写ガール隊隊長の平賀優花さん。

先ほど御挨拶頂きました、西脇隆俊京都府知事です。

○西脇知事 よろしく申し上げます。

○黒川孝宏 先ほど、私は一番前で吹奏楽を聞かせていただいていたんですが、YMCA、
すごい迫力でした。YMCAといえば、西城秀樹さんですね。お亡くなりになられた
が、実は私も広島の人間で、中学校は西城秀樹さんと同じ中学校に進みました。隣のクラ
スに彼がいて、文化祭のときにドラムを鳴らして、そのころから非常に目立っていま
した。あの曲を聞きながら、そんなことを思い出し、ちょっと元気を頂いたというような
感じでございます。

それでは早速、それぞれのパネリストの皆さんから、現在、京都丹波ブランドの魅力発
信に向けた取り組みをどんなふうに行われているのか、お伺いしたいと思います。佐藤さん
の方から順次よろしくお願いたします。

○佐藤伸二 ただいま御紹介頂きました佐藤でございます。座ったままでよろしいのでしよ

うか。よろしくお願ひいたします。私は料理人でございます、専門はフランス料理でございます。肩書といたしましては、JR西日本がやっております、ホテルグランヴィアとか、阪神ホテルを統括してる総料理長ということで全体を見ています。それから、全国区の公益社団法人なんですが「全日本司厨士協会」という、洋食の料理人が集まる1万人規模の団体がございます。その京都府本部の会長をさせて頂いており、今日は、この2つの肩書で参加させて頂いているということでございます。

まず、きっかけはといいますと、道の駅で、皆さんが地域の食材を使って伝統的な料理を考えられていて、それをフランス料理をやっている私が、少しおしゃれにコーディネートするというので、コラボをやらせて頂きました。2年前に行ったときでは、私がこんな（料理人の）格好で道の駅にいと、すごく警戒されるといいますか、どんなことをするんやろうと思われていたと思います。1年目は割と何となく一緒に考えていたんですが、やはり、私はその伝統料理を後世に伝えていきたいと。地域、地域の食材であったり、技法であったりというのをやっぱり地域を通じて後世に伝えていきたいと思って、そういう思いの中でやっていました。

そして2年目になりまして、皆さんいきいきと動かれて、私が少しのアドバイスをすることによっていいようになっていって、そして今、道の駅で地元食材とのコラボもさせて頂いています。そういう関係で、生産者の皆様方、京丹波の方々と一緒に仕事をさせて頂いています。

全日本司厨士協会の関係では、京都市内の有名なホテルとかレストランの料理長を集めて、バスを仕立てて農家の生産者の方を訪問しました。生産者の方々といろいろな話をしながら、地元で使っておられる食材などについてお話をお伺いしました。今年の2月には、グランヴィア京都なんですが、生産者の方々と我々の思いを伝えるメッセージとして「生産者の集い」をさせて頂きました。

○黒川孝宏 ありがとうございます。佐藤総料理長には、「京都丹波イチ推しの食」の監修をしていただいております、とびきりの食材を使って、見た目にも容器にもこだわった食を提供していただいております。

続きまして、篠田さんのほうから、地ビールについて御紹介いただけるということです。

○篠田吉史 京都学園大学のバイオ環境学部で発酵醸造を専門にしており、大学でビールの研究をしております。今年8月30日に、2020年までに、畑からグラスまで「京都府原料100%のビール」をつくるというプロジェクトを立ち上げました。ビール大麦を生

産する亀岡市の農家、ホップ栽培に取り組む与謝野町の農家、キリンビール、府内のクラフトビール醸造所、京都府やJ A京都など19団体が参加しています。8月30日に発足式を行いました。

今日来られている方の中で、亀岡でビールの原料になる大麦をつくっていることを知っておられる方、手を挙げて頂けますか。ありがとうございます。そうですね、地域の人はこちらやってちゃんと認識しておられる。大事なんですけど。ただ、お隣の京都市の方ってあまり知らないです。東京で言ったら、はあ？と言われます。でも、アメリカで京都で大麦を作ってるよって言ったら、へえ、となつて、モルトになったら是非欲しいと言われる。

クラフトビールの流れで、職人が技を込めてつくる上質なビールが流行っています。東京とか大阪とかでもたくさんそういうものを作っています。原料というのは麦芽とホップ、それから酵母と水の4つです。

亀岡では、明治43年、1910年からビールを生産しています。だからもう今年で108年になります。京都府としても古くてですね、明治27年、1894年に、吹田にアサヒビールの工場があると思うんですけど、そこに製造委託してビールをつくっていました。今、大麦といったら栃木とかその辺が主産地なんですけど、栃木で栽培が始まったのは明治39年ですから、京都のほうがずっと古いんですね。以前は京都府全域で栽培されていたんですけど、みな寂れてしまって、亀岡には残っています。

今、100%メイドイン京都の地ビールを作るために、ビールの原料生産から醸造、飲食店等での提供まで、つまり「畑からグラスまで」ということで、地元職人がつくったビールを地元で飲むことを考えています。そういう世界を京都につくりたいと思って活動を始めました。今日は南丹地域の産業分野のお話ということで呼んで頂いているんですけど、地ビールプロジェクトの話など発言できるかなというふうに思っています。

よろしくお願ひします。

○黒川孝宏 はい、ありがとうございます。2020年に製品化ということで、今の進み具合は何割ぐらいですか。

○篠田吉史 今年中には、京都産原料の麦芽とホップを一部、京都産にしたビールを作ろうとしています。

○黒川孝宏 楽しみにしております。

○篠田吉史 ありがとうございます。

○黒川孝宏 ありがとうございました。続きまして、次に長野さんのほうから取り組みにつ

いてのお話をお願いいたします。

○長野豊 失礼します。私は美山・かやぶきの里から2キロほど上流に位置します料理旅館枕川楼^{ちんせんろう}を営んでいる長野豊と申します。枕川楼は明治36年の創業で、私で3代になります。京都府さんからも、4、5年前に京都の老舗ということで賞を頂いております。

先ほど紹介して頂きましたとおり「京・来て観て丹波の会」の会長を務めております。

「京・来て見て丹波の会」は、京都丹波2市1町の亀岡市、南丹市、京丹波町の旅館や飲食店、それにレジャー会社、旅行代理店、それと神社仏閣の、現在42の企業や団体に構成しております。今年は設立の節目の10年目を迎えて、この7月に10周年の記念総会を開催することができました。その折には、西脇京都府知事には、講師としてお世話になり「京都にまつわる観光について」を御講演いただきました。その節は、御出演ありがとうございました。会では当初より3、4人が行政枠を超えた広い視野を持って、京都丹波の観光や物産の発信について、人とのつながり等を図りつつ取り組んでまいりました。その1つに毎年12月1日を「ぼたん鍋解禁日」として、丹波の冬の味覚、ぼたん鍋を皆さんに知っていただくという企画を催してきました。また、「繋がろう！京都丹波の観光懇談会」と題して、由緒ある寺社と連携して、各観光協会の皆さんを交えて、勉強会をしてまいりました。去年は八木町の清源寺さん、それから京丹波町の大福光寺さん、それと亀岡の穴太寺さんなど、由緒あるお寺さんをお招きして、いろいろ住職の方から御説明を頂きました。同じ地域内におりながら、まだまだいろんなところがあるということで、勉強を兼ねて、会員と一緒に研修に行きたいと考えております。

そして年に1回、新年会などで交流しまして、勉強会や活動をさらにステージアップしています。私たちが基礎となり切磋琢磨しながら、会員同士の結束の固さを財産として、より一層、力強く取り組みを進めていく必要があると考えます。

この会は、当初から「探る・学ぶ・繋がる・売る・生きる」を合言葉に、ふるさとが歴史、文化、観光、食、スポーツで、より多くの方が魅力を感じる京都丹波となり、にぎわっていくことを願っております。2020年には、亀岡にゆかりのある明智光秀を主人公とするNHK大河ドラマ「麒麟がくる」が放映されます。これまで以上に注目が集まる中、京都丹波地域への観光誘客の促進、地域経済の底上げに、私たちこの会も貢献していきたいと考えております。どうかよろしく申し上げます。

○黒川孝宏 どうもありがとうございました。

ただ今、お三方にお話しして頂きました。今日はパネルディスカッションということ

にはなっておりますけども、各パネリストの皆さんで意見交換をするには、時間的にもちょっと無理がございますので、会場の皆様にもそれぞれの活動について知って頂き、知事にも南丹エリアの、京都丹波の良さを聞いて頂くという形にしたいと思います。

ここで知事からコメントをして頂くという感じで、今後の話に移っていきたいというふうに思っております。それでは、今のお三方のいろいろな取り組みにつきまして、西脇知事からコメントを頂きたいと思います。

○西脇知事 どうもありがとうございました。蛇足なんですけど、私も西城秀樹と同じ年なんですよ。私、小学校の担任の先生が京丹波町におられまして。5年生か6年生か忘れましたが、一回、おいしいものをごちそうするからうちに来いって言われまして。もう、うっすらとした記憶しかないんですけど、マツタケと牛肉のすきやきをごちそうになりました。今から思ったらすごい残念やけど、子供はやっぱり肉のほうがよかったのか、マツタケ残したことだけ覚えてるんですよ。今から思ったら、すごい惜しいことしたなど。

最近、マツタケとかクリの生産状況が厳しいと聞いてるんですけども、京都丹波は食の宝庫だと思います。6月の補正予算で、京都式ガストロノミーツーリズム推進事業というので、食の観光を、ひとつの地域だけじゃなく、府域で繋いでいこうという予算をやっています。

そのときに、この京都丹波地域の方から若干異論が出たのは、ガストロノミーツーリズムという名前がわかりにくいのもあったんですけども、もともと京都丹波で食べる食材はおいしいに決まってる。それが今まで京都市内に収奪されてたと。全部材料持っていかれて、向こうで高く売ってるけど、全部こっちの食材なんだとおっしゃっておられる。今、3人のお話を聞くと、それを打破するとか、現地で付加価値をつけていくとかです。ビールに至ってはもっと壮大なんですけど、大麦を核として、全部付加価値をつけて高級感を出すということですね。

それから、長野さんのところでこの間講演をしたんですけども、みんなでやっぺいこうということで、今のぼたん鍋の解禁なんかもですね、いつでも食べられるというよりも、それこそ解禁日を設けると高く売れるかもしれないですね。そういう工夫を現地でやって、より付加価値を高く、もちろん、中身が伴わないといけないんですけど、そういうことをされておられるのはありがたいです。その輪を広げていくのにはどうしたらいいかなみたいなことも、後でお聞きできればと思います。どうもありがとうございました。

○黒川孝宏 はい、どうもありがとうございました。

それでは、続きまして谷さんのほうから、ちょっとまたがらっと内容は変わりますけれども、絵本ということでお話をお願いします。

○谷 文絵 皆さんこんにちは。京丹波町から参りました谷と申します。私は京丹波町で7年前に閉校しました質美小学校を利活用させて頂いて、絵本屋「絵本ちゃん」というのをやっています。皆さん、絵本ちゃんという名前が、何してはるのという感じでよく言われるんですけれども、元6年生の教室を利用して絵本の販売をしています。現在、お隣の5年生教室を利用して、誰でも絵本を楽しんで頂けるという、そういうお部屋を貸し出しもして、図書室のような「ひよこ文庫」というところも運営しています。

全国で、毎年500校ほど小中学校が閉校しているんですね。地域の中心であった小学校、中学校が、どんどん閉校して閉ざされているんですね。そこを人が使わないと、どんどんその地域が寂れてしまいます。

私は、京丹波町出身の主人と結婚しまして、子供をこちらの小学校に入れたくて、望んで京都市内から京丹波町に引っ越してきました。

しかし、その当時、気軽にちょっと立ち寄ったり相談したり、何かしら発言したりという場が全くなかったので、すごく寂しい思いをしてました。それで、7年前に閉校したままになっている小学校を人が集える場所にしようと。自分もそこに集う人の1人になりたかったので、ぜひ使わせてくださいということでスタートしました。

皆さん、先ほどからすごく素晴らしいことをされている中で、私は本当に何がその地域でできるかなという、昔からしていた絵本の読み聞かせであったりとか、お母さんたちといろんなお話をしたり聞いてあげることぐらいかなというので、本当にスモールスタートなんですね。

小学校をいつも開けておく、絵本は販売してるんですけれども、自分の仕事はその場所をいつも開かれた場所にしておくことだと。それで若い人たちや子供、小さな子供を持つお母さんたち、移住してこられた方が気軽にふらっと立ち寄れて、日常の出来事をいろいろ話したり、暮らしの悩みとか問題点、自分がしたいこと、自分はこんなことができるんですよとか。あと、こういうことをしたらいいのにとか、地域に対してもこういうことしはったらいいのになとか。そういう考えを気兼ねなく話せる場所、集える場所をふだん提供しています。

これからも暮らしておられる方、常にその現場、その地域に常にいらっしゃる方が、どういう考えをもって、どういうふうはこの地域の今後をイメージされているのかとい

うその声を聞いて、これからのこの地域の未来というのを発信していったり、知るきっかけにしたいと思います。

地域の人たちだけの集いではなくて、その旧質美小学校は、ピザとパスタのお店、地域のお母さんたちがしている喫茶やランチルームであったり、趣味のお店であったり、雑貨屋さんであったり、古道具とアンティークのお店であったり、地域の餅米を利用したおかし屋さんであったり、おいしいスイーツを出されるカフェであったり、各教室が地域のことを発信していくように、活かされて使われています。そこへ遠くから、本当に遠くからわざわざ人が来て頂いていますし、私たちもそこで地域のルールを学んで、私たちがまたその隠れたというか、当たり前に行っているいろんなことを発信しながら、地域の方と意見交換したりしています。これからもそういう場であつたらいいなと思っています。

まとまらない話ですみません。

○黒川孝宏 小学校って考えてみると、確かに地域にとって重要な存在ですし、質美小学校も地域の皆さんが集う、地域の交流活動の拠点になっているということだと思います。

次、平賀さんの方に発言をよろしくお願いいたします。

○平賀優花 はじめまして。佛教大学社会学部の学生で、「京都丹波・写ガール隊」に所属しています、平賀優花と申します。今日は若者の目線ということで参加させて頂いています。

私たち京都丹波・写ガール隊は、フェイスブックを通じて京都丹波の魅力を発信しています。また、南丹市のケーブルテレビでも多数、番組を制作しています。この番組は、南丹市のいいところをPRしたり、課題をみんなで考えたりすることを目的にしています。今年度は番組を2本つくるので、清流の鮎まつり取材している班と、南丹市の子育て活動取材している班に分かれて、それぞれの制作に当たっています。

私は鮎まつりの班で、少しでも多くの子供たちに、南丹市の魅力であるアユの文化を広げられたらいいなと思って、鮎まつりの取材を行っています。鮎まつりについては11月に放送されて、子育てについては3月に南丹市ケーブルテレビで放映されます。公式のサイトでユーチューブにもアップされるので、皆さん見てください。

以上です。

○黒川孝宏 ありがとうございます。最近はフェイスブックとか、いろんなSNS、交流サイトで、若い学生さんたちも、京都丹波の魅力を発信するということだと思いますので、大いに期待をしております。

知事、今の2人のお話を受けて、コメントをよろしくお願いたします。

○西脇知事 どうもありがとうございました。今の2人の話は盛りだくさんで、論点が多くて、全部返すことはできないんですが。まず、谷さんについては、移住というところで、この間、綾部市で京都の消防操法大会がありまして、南山城の消防団の方なんですけど、重たいホースを果敢に担いで、筒先を持ってダッシュして時間を競うんです。物すごい早かったんですけど、その消防団、全員移住してきた方だったんですね。それは、その人たちが地域にどうやったらなるべく早くなじむかという、消防団に入るのがいい、という結論だったということです。今まで全国大会で優勝したところというのは、どこかの市の消防団で精鋭を選抜していたんですけど、そこだけは本当に南山城村の同じ分団だということです。そういう移住してこられた方で、何ていうんですかね、志が高いというか、そういう方もおられます。

どちらかという、その人の人生観とか生き方の話なんですけど、実は間違えてちょっと大都市に行ってしまったけど、ずっと非正規で、実は農業に向いてたなというような人もいるんだと思うんです。土地柄もあって、リセットできないという人が多いんですけど、行政がちょっと支援すればできるんじゃないかなと思うんです。日本全部の人口は変わらないから、移住者の取り合いではなくて、一人ひとりの幸せというか働きがあったらいいかなと思うので。しかも、移住して来られる方というのは、それなりに意識を持っておられるので、その地域にとっても非常にプラスになると思います。

あと、SNSとか番組制作ってカッコいいですよ。番組つくってるって何となくカッコいいですよ。我々が思っている以上に、SNSはPR効果があります。私が復興庁で福島の風評被害をやっているとき、輸入規制が全然解けないで困っていました。外国にPRするには、その国の有名なアーティストかアスリートに現地に行ってもらって、みんな普通に生活しているし、全然何ともないし、どんどん食べてもいいよということ発信してもらうのが一番いい。なかなか実現しないんですけども、効果は大きいと思います。ありがとうございました。

○黒川孝宏 ありがとうございました。今、一巡で御発言を頂いたわけですがけれども、知事の方からも一言頂きました。それで次は、どういうふうに関丹波を盛り上げていくか、5名それぞれのお立場から、地域の活性ということで今後の取り組み、また、知事に知って頂きたいこと、新しい総合計画に盛り込むべき課題とか施策の方向性について、今度は逆に平賀さんのほうから、2分程度でお願いをいたします。

○平賀優花 まず、今後の活動ですが、先ほど言いましたフェイスブックなどSNSの活用を継続的に行っていきたいと考えています。フェイスブックやインスタグラムに、行政、南丹市の現在の取り組みの写真や動画を積極的に投稿したいと考えています。新しい総合計画については、御提案は難しいですが、私たちが活動していく中で気になった4つの点を、今日はお伝えしたいと思います。

まず1つ目は、写ガール隊など地域活性化に取り組んでいる活動などをもっと広めてほしいと思っています。次に、2つ目は、京都丹波のポータルサイトを充実させて、情報提供や現状の発信などを継続して行ってほしいです。そして3つ目は、各活動に参加している人が少ないので、人材の確保などもしてほしいと思います。最後に4つ目は、京都丹波以外から来る人のためにも、アクセスを分かりやすくしてほしいです。私たちも実際に美山に行くことがあって、バスが出ないときとかは自分たちで行ったんですけど、すごい難しく、どうやって行くんだろうみたいな。そういったことを改善してほしいなと思っています。私たちは活動を通してこのことに気づきました。

以上です。

○黒川孝宏 はい、ありがとうございます。4つ、いろいろと御意見を頂いたということだと思います。じゃあ、続きまして、谷さんのほうからお願いをいたします。

○谷 文絵 先ほど話したことにも重なりますが、今まで地域に根づいている、続いている文化的な資産であるとか、いろんな行事も大切にしながら、それらを違う視点で見られのが、移住者であったり若い人たちであったりすると思います。そういう視点を生かしながら、これからを担う若い人たちの多様なスタイルを取り入れて、都会とはまた違った取り組みやアプローチ、さまざまな選択肢が増えていくような、そんな企画を考えていきたいです。若い人たちや移住してこられた方が「機嫌よく、楽しく、ずっと暮らしたい」と思う地域になるような、そんな取り組みを一緒に進めていきたいと思っています。暮らしの現場がまずは大事なのではないかなということ。子育て、文化的なこと、芸術的なことを行政に任せるだけではなくて、私たちができることから取り組んでいきたいなと思っています。

○黒川孝宏 ありがとうございます。地域にとって歴史的または文化的資源など、いろいろあると思いますので。ちょうど今の時期でしたら、亀岡でしたら亀岡祭り、南丹市のかやぶきの里ですとか、特産品でしたら京丹波町の丹波くりとか、それぞれの地域の特徴ある文化財や特産品を知っていただく機会も重要ですし、地域の拠点づくり、または交流の中

で、写ガール隊にSNSやインスタグラムとかを使って発信してほしいという話が出てくるんだと思います。知事すみません、一言よろしくお願いします。

○西脇知事 平賀さんが言わはった写ガール隊とか地域を活性化する団体がいっぱいあります。私、思ったんですけど、ジャンルが違くと意外と連携できていないというか、あまり知らない人が地域にいる。そういうのが横でつながればいいなというふうに思いました。バス乗り継ぎ、わかりにくい人もいるということですね、すみません。

そういう意味では、もう一つお願いしたいことがあって。消防団の話ばかりで恐縮なんですけど、今、消防団サークルみたいなのがある大学があります。だけど、住んでるところがバラバラやから所属してるところが違うんです。だから、ぜひ平賀さんも学校のほうに言うとかして、そういうことをやっている学生のサークルをつくって欲しいです。京都府域で活動してもらって、それでまた学校で成果を持ち寄ってもらって、そういうのを一回試みてもらえたらいいかなと思います。

谷さんの話で、移住の話が出てきたんですけど、私も「子育て環境日本一」というのを公約にしている「行き活きトーク」もやってるんですけど、昔のいわゆる公園デビューみたいなことが全くなくて、子育て中のお母さん同士が悩みを聞き合うところがないと。それが、例えばフリーマーケットだったりですね、そういうところで、お母さんたちが集まってくるとかいう話もありまして。今聞いたら、その小学校も満杯なんですか。これ行政がやったら、何人配置せなあかんとか、人件費がかかるとかね。土曜、日曜も働かなあかんのかとか言われるんですよ。それをみんなでやっていただけたらありがたいです。やってる効果は全く同じなんですけれどもね。やっぱり集まる場所というのは、これからの人口減少、高齢化社会で非常に重要だなというふうに思いました。

○黒川孝宏 ありがとうございます。

続きまして、長野さんのほうからお話ということで、2分程度でお願いします。

○長野豊 事前に問題提起を頂いておりまして、お堅いような文句になるんですが、一応、気持ちを言わせてもらいます。

地域発展のためには、観光産業の今まで以上の発展が必要不可欠でございます。市民の皆様と連携して、特産品及び観光資源を発掘するなど、観光の仕掛けづくりや観光客の誘客に貢献すると思います。また、特産品である地域の素材を活用して、内外に誇れる京都丹波ブランドを開発していくには、それを製品化して雇用機会を増やし創出するとともに、豊かな食のPR、製品の販路拡大、魅力ある観光振興を図るなど、地域の活性化に向けて

幅広い取り組みが必要となってきます。

京都丹波で、観光から宿泊まで完結できる新たな観光ルートや旅行プランを提案するのも、これから大事でございます。そうすれば、この地域内で、2日でも3日でも滞在して頂けると思うんです。観光客の消費単価が、京都市内に比べて府内は10分の1、1,600円ほどでございますので、そのあたりも含めて、これから考えていただかなければならないと思っております。

そして、そうした滞在型観光商品の充実などへの取り組みは、私たち民間団体だけでは限界があります。官民一体となった多様な観光圏整備が重要であると考えております。国内外に通用する、競争力のある観光圏に発展させるため、広域観光圏整備事業に積極的に取り組んで頂けますよう、よろしく願いいたします。そのためには、編成できる予算を少しでも多く活用して頂いて、夢のある活動を行政もさらに後押しして頂ければありがたいと思っておりますので、どうかよろしく願いします。

○黒川孝宏 ありがとうございます。振興局のほうでは、森の京都観光プランコンテストといったようなことで、若い高校生に滞在型のプランやルートをいろいろ考えてもらおうといったような取り組みも昨年度されてます。今年度もそういう取り組みをされるということですので、そこでもまた若い人から観光プランのアイデアを得たらいいのではないかなというふうにも思います。

それでは、篠田さんのほうからビールの続きをお願いします。

○篠田吉史 はい、ビールの続きです。我々、行政の方に何かということは、なかなかないんですけど、2020年を目標にして京都産原料を100%使ったビールの商品化ということを考えています。また、オリンピックイヤーの時期ということなので、ホップは与謝野醸造所で作っておられてるんですけど、今年は麦芽とホップを一部京都産にすると。来年は京都産の酵母を使用するというので、京都でとった酵母でビールをつくろうというふうにします。先ほどちょっと話がありましたけど、2020年は亀岡にスタジアムもできる。大河ドラマも亀岡が舞台になる。なので、亀岡に非常に注目が集まる千載一遇のチャンス、もう二度と来ないみたいな。なので、その絶好の機会に、私も京都丹波、亀岡で110年つくり続けているビールづくりで「京都がクラフトビールつくってるぞ」というのを日本中にアピールしたいと私は思ってます。そのうち、世界にもそういうことを打ち出したい。

そのスタジアムですけど、麦畑のすぐそばなんですね。ちょっと行ったらビールつくってるところがあるんですね。あそこで一面に広がる麦畑を眺めながら、そこに生えてる

麦でつくった非常においしいビールを飲めたらなと思っています。

何しろ先ほども言いましたが、ここは、日本で有数の古い歴史ある、伝統ある大麦産地なんですね。スタジアムよりも居酒屋をつくってください、ということではないんですけども、そういうふうになると何がいいかと言ったら、もっとここの農家さんに、胸張って、プライドを持って麦をつくってもらわないかんと思うんですね。そうすると、そんなことだったら私もやりたいみたいな若者が出てくるかもしれない。そういう、地元の人が誇りに思えるのが、京都丹波ブランドなんじゃないかなと思うんですね。だから、そういう意味でも、せっかくそのスタジアムが2020年にできますし、そういうところに大きな可能性を私自身は感じています。

○黒川孝宏 ありがとうございます。皆さん、京都サンガが今日はアウェーで5時まで試合です。現在、勝ち点34で19位です。ですので、何とか今日アウェーで引き分けるか、勝ったらJ2に残ります。亀岡のスタジアムでも勝ってもらって、サンガの勝利でビールを飲むという、2020年のビールを楽しみに。私はどっちかというビール党ですので、そういう話ばかりして恐縮ですけども、昔から大麦を生産しているということで、今、御提言を頂きました。

それでは、佐藤さんのほうからお願いします。

○佐藤伸二 はい。先ほどの続きになるんですけども。やはり行政の方には、我々料理人と生産者の方をつなぐ役割をしていただきたいなと思います。どういう意味かといいますと、料理人というのはマジシャンではないので、いい食材がないと料理をつくれないうんですね。でも、いい食材があればおいしい料理がつかれるかという、それもできないですね。皆さん、よく、いい食材があったらおいしくできると言われるけれど、全くできないですね。悪い料理人はいい食材をだめにしますから。そういう意味で言うと、料理する技術と生産者がつくる食材ですね、両方が非常に大切なんですね。南丹というのは、非常にいい食材があると思います。

レストランも一緒なんですけど、おいしい料理の店って流行るんですが、必ずどこかで終わってしまうんですね。続いているレストランというのは、やはり人なんですね。南丹でいい食材を探すということは非常に大切なんですけど、それをつくっている人の人柄、この人がつくった物に対してほれ込んだから、私はこの料理をつくりたいんだという、ここまですらないと伝わっていかないと考えてます。ですから、料理というのは単につくるだけじゃなくて、土地、文化、人、この発展によって続いていくということですね。

我々は、地域会、司厨士協会の方と勉強会をやっております。来年から生産者の方も来ていただいて、10月くらいに料理人と生産者の方とのディスカッションをして、我々が感動した人を表彰するとかですね。ちょっと楽しいことを入れながら、人と人とのつながりをつくっていきたいと思っています。

○黒川孝宏 ありがとうございます。先ほどの篠田さんのお話にあったように、誇りを持って生産をしていく。また、佐藤さんのお話では、料理人と生産者がお互い顔の見える形で信頼関係をつくって、食材を素晴らしい料理に高めていく、そういう1つの考え方を御提示して頂けたというふうに思います。

それでは知事の方から、コメントをよろしくお願いします。

○西脇知事 ありがとうございます。京都丹波地域の観光客は増えているんですけど、ただ、京都市内は観光客が増えすぎていて、すぐそばに、そういうマーケットがあるわけですから、少しこちらに引っ張ってくるだけでも非常に効果があるということです。

そういう意味では、スタジアムにはレストランもつくることになっておりますので、まさに京都産100%のビールと佐藤さん監修の京都丹波の食材を使ったら、少々高級な感じにできると思うんですけど。

通年、いろんなイベントができますし、駅に非常に近いので、スタジアムを中心にしたまちづくりという中で考えていけたらなと思います。今、大河ドラマの話も出ましたけど、それぞれの市町だけではなく、周遊してもらうようなことを考えています。そのためには京都府北部の入り口がこの京都丹波地域なので、ここで頑張ってもらわないと北部まで波及効果が行かないので、ぜひともそういう広域的な視点を入れていただきたいと思います。食材は、いい食材とよくわかりましたので、是非この地域に入っていて、つながりを深めていただければと思います。

○黒川孝宏 ありがとうございます。今、パネリストの皆さまからそれぞれに、現在、そして今後の取り組みについてお話をさせていただきました。それでは、今後さらに京都丹波を盛り上げていくために、それぞれ1分程度の感想や今後の抱負ということでお願いをしたいと思います。

それでは、佐藤さんのほうから順にお願いします。

○佐藤伸二 まとめになりますが、人とのつながりという話では、仕組みとかグループなんかもできてくると思うんですね。行政の方としゃべってますと、異動も多いということで、一生懸命取り組んでいただいても、人が代わるということなんで、仕事の引き継ぎも

そうなのですが、その思いをちゃんと引き継いで頂きたいというのがあります。それから、全てを行政に任すんじゃなくて、我々自身も関わって、民間の団体や人がいかに組むかということです。思いのある民間団体、行政のいろんな組織も含めて、そういった人たちがいきいきと働くことができ、そして思いを持って取り組める環境づくりをしていただいて、継続していくということ。これが僕は一番大切だと思ってますので、途切れないような仕組みをつくっていただけたらと思っております。

○黒川孝宏 ありがとうございます。じゃあ、篠田さんお願いします。

○篠田吉史 さきほどのビールの話、今日は農家の方がおられるかもしれませんが、じゃあ大麦つくってみようかみたいに思われたら、ぜひ御相談いただけたら。我々も大学内に麦の先生がおられますのでつなげます。

地方創生ってずっと言われてて、先ほども人口の話がありましたけど、地方都市間が競争になってるんですね。京都なんかも追い上げられる立場になるんじゃないかと思うんですけど、それをもういっぺんアグレッシブにできたらいいんじゃないかと思うんです。

京都はやっぱり「日本初が好きですよ」ってよく言われるんですけど、やっぱり日本初をとっていかないといけないと思うんです。そういうふうに皆さんが思っただけで一緒にやっていたらなと思います。

○黒川孝宏 ありがとうございます。長野さん、お願いします。

○長野豊 本日はこのようなありがたい場に出席できましたこと、厚く御礼申し上げます。

先ほども申しましたが、2020年にはNHKの大河ドラマが、この大丹波を舞台に放映されます。また、亀岡の新スタジアムが運用開始ということで、にぎわいも伸びると思います。

夏は夏で、東京オリンピック・パラリンピックが予定されております。関西空港にも大勢の人が訪れてくると思います。今からそのおもてなしに向けて、我々、会員もいろんな施策を考えております。例えば、「麒麟がくる」にちなみまして「光秀弁当をつくろう」という声が上がっておりますので、スタジアムでも販売していただけたら嬉しいと思います。今後もいろいろと準備してまいりますので、どうかよろしくお願ひしたいと思ひます。

○黒川孝宏 はい、ありがとうございます。じゃあ、続きまして、谷さんお願いいたします。

○谷 文絵 このような企画やイベントがその時だけのものにならずに、今日のような異業種、また多世代の人がこうして集って、それぞれの視点があることを知るということが、本当の交流であり、これからにつながっていくことだと思ひます。都会に近い京都丹波、都会への憧れを持ちつつも、その土地にしかない、また都会と同じようであるものもあり

ます。それをしっかりと知って、それぞれが1つでも自慢できることを楽しみ、誇りを持ち、楽しく暮らしていくということが、これからの明るい京都丹波の未来につながっていくと確信しております。小さいことからですが、いろんなことにトライしていきたいと思えます。よろしくお願ひします。

○黒川孝宏 はい、ありがとうございます。最後に平賀さんのほう、お願ひいたします。

○平賀優花 今日はさまざまな視点から物事を見ることができて、とても勉強になりました。知事をはじめ、この場をいただいた皆様に感謝申し上げます。私たち京都・丹波写ガール隊の活動も頑張りますので、ぜひ皆さんに私たちの番組を見て頂きたいと思ひます。また、もし可能であれば、知事やパネルディスカッションに参加されている皆様、それから会場におられる皆様に、写ガール隊のフェイスブックなどに番組の感想とかコメントをもらえますと、とても励みになるので、よろしくお願ひします。

最後になりますが、私たち京都丹波地域には頑張っている方がたくさんいるので、そういった方々の活動も見て頂けると、私たちも嬉しく思ひます。今日は本当にありがとうございました。

○黒川孝宏 はい。ありがとうございました。

今、それぞれ5名の皆さんにコメントを頂きましたけども、ここで知事からも一言コメントをいただければと思ひます。

○西脇知事 今日は本当に貴重な意見をありがとうございました。特に、最後の佐藤さんの話と共通するんですけど、この日限りにならないようにということですね。思いを引き継ぐようにということ、非常にいい言葉だと思ひました。役所はどうしても人事異動があるんですけど。なるべく我々が役に立てるようにと考えています。どうもありがとうございました。

○黒川孝宏 はい、どうもありがとうございました。

ここで、相当、時間が詰まっはいるんですけども、せっかくの機会でございます。会場の皆さんから、何か御意見を伺えましたら。お一人かお二人程度、発言を希望される方は挙手でお願ひいたします。係の者がマイクを持ってまいりますので、お名前をおっしゃって御発言をいただければというふうに思ひます。いかがでしょうか。はい、ではお願ひします。

○発言者① カワカツと申します。今日はどうもありがとうございます。先ほど、長野会長さんもおっしゃっておられましたけれども、南丹地域の、森の京都の取り組みもございま

す。この地域での触れ合いでありますとか、この地域のすばらしさというものを聞かせていただき、大変素晴らしいことだなというように思いました。ありがとうございます。

ただ、先ほど長野会長さんもおっしゃっておいりましたけれども、観光集客というのが大変に伸び悩んでおると理解しております。それぞれ、いろんな御意見を頂きましたけれども、その部分については、やはり早急に何か手を打ちませんと。今、これから人口減少の時代に入ります。それも非常に大変やなと思いますので、何か観光客の方にお金を落とさせていただければというようなことで、何か具体的にございましたらお伺いしたいなと思います。

○西脇知事 ありがとうございます。京都市以外の観光客の1人当たりの消費額は、京都市内の10分の1なのですが、圧倒的に多く占めてるのが宿泊費なんです。だから、極端に言えば、宿泊施設の誘致しかないわけなんです。けれども、そう簡単にいかないけど、これは絶対にしよう。

もう1つは、飲食だと思うんですね。これは先ほど佐藤さんが仰ってるように、付加価値をどんどんつけていって、よりたくさんお金を落としてもらえるようなものにすると。もう1つは食材そのものをお土産にするのではなくて、今、6次産業と言ってますけど、なるべく加工して売り出そうとしています。地道な努力のようなんですけど、1つ1つの業種とかで見れば効果はあるものですから、宿泊施設の誘致と、あと飲食の付加価値で、いい食材を確保しておいしい料理をつくっていただく。

もう1つは、最近、体験型の観光も多くてですね、これは仕掛けが要りますけれども、例えば、今度のスタジアムにはクライミングの施設なんかもつくっています。何かそういうものも組み合わせるといことが有効かなと思っています。

○黒川孝宏 はい、ありがとうございます。ではどうぞ、もう一方お願いいたします。

○発言者② 先ほど平賀さんが紹介して頂きました、南丹市情報センターのマツムラです。この管内で地域活動として、南丹市と京丹波町にケーブルテレビがあります。南丹広域振興局さんが、広域行政として平成24年から共通の番組企画を行い、番組制作は我々がすると。できた番組を放送するといったことを続けてまいりまして、これまで35本の広報番組をつくりました。2年くらい前からは佛教大学の学生さんにも入っていただいて、年間3本程度の番組をつくって頂いています。それぞれの地域で好評になっておりまして、その番組を南丹広域振興局のホームページのユーチューブで見ることができるようになっております。恐らく、広域振興局としては非常に貴重な取り組みをされていると思います。

先ほどから皆さんのお話を聞いて、この地域の優れた食材、それと食文化、それから京都丹波高原国定公園ということで、これも1つの大きな京都丹波のブランドになろうかと思うんですけど、まだまだPRできてないなと思いますので、ぜひ知事さん、京都丹波が広く世界に情報発信できる、そんな計画づくりをしていただけたら、ありがたいなというふうに思います。よろしくをお願いします。

○黒川孝宏 じゃあ、ちょこっと知事の方からお願いします。

○西脇知事 まさに計画づくりというのは、そういう魅力を発掘し、ブラッシュアップしていくためにつくっていますし、この計画の策定に非常に重要だというふうに思っていますので、引き続きよろしくをお願いします。

○黒川孝宏 はい、ありがとうございます。

会場のほうから2名の方にご発言をいただきました。まだおられるかもしれませんが、以上をもちまして終了とさせていただきたいと思います。

今日はパネリストの皆さん、また会場の皆さんに「京都丹波ブランドのさらなる魅力発信に向けて」ということで、さまざまなお取り組みの紹介、またはコメントを頂きました。

時間も押し迫っている中で恐縮なんですけども、私自身、長く文化財に関わる仕事をしていました。ちょうど今年、平成30年は、文化庁創立50周年という年に当たり、文化庁が京都に本格的に移転することも決まっています。そして、この6月には文化財保護法も改正されて、いい意味で文化財を観光、まちづくりに活用していくというような部分を担っていく手助けになればというふうに思っております。

また、私としては、過去の贈り物、現在につながるもの、そして未来に伝えるもの、それが文化財や文化遺産ということで、保管ということも大切にしながらも、新しい取り組みを展開していきたいと思っておりますので、お伝えをさせて頂きました。

以上をもちまして、私のコーディネーターとしての説明を終わらせていただきまして、マイクを司会者のほうにお返しします。

○司会 黒川様、ありがとうございました。最後に、西脇隆俊京都府知事から、本日の締めくくりにあたりまして、御挨拶をお願いします。

○西脇知事 皆様、今日はお忙しい中、御参加を頂きましてありがとうございます。コーディネーターの黒川様、それからご来場の皆様も本当にありがとうございます。私、思うんですけど、こういう種類のパネルディスカッション、いつも時間が足らへんですよね。

結構ええとこで大体終わるんですけども、パネラーの皆様にも、引き続き御意見を賜

りたいと思いますし、お運びの皆様もホームページやインターネットとかで御意見を頂くようなシステムもございます。今日は、本当にさわりだけだったんですが、素晴らしい御意見を賜りましたので、これからも引き続き、御支援、御協力をお願いいたしまして、最後の御挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

○司会 西脇知事、ありがとうございました。これをもちまして、「平成30年度府民意見交換会in南丹 西脇知事と行き活きトーク」を終了させていただきます。

ステージ上の皆様、西脇知事、会場の皆様、長時間ありがとうございました。